

平成30年度事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 ほっと・すぺーす 21

1. 事業の成果

子育て・子育て支援事業を今年度も県内全域で展開をした。

子どもの心の居場所作りを目的とした「子どもほっとラインもしもしにゃんこ 🐾」は日曜日午後2時から6時毎週開設した。1年間のアクセス数は865本、その内聴き手と繋がって会話した数は185本だった。県内全域からアクセスがあり、年代も小学生から高校生まで幅広くかかっている。9月30日には自死予防月間に合わせ、午前9時から午後9時まで長時間開設日に取り組んだ。開設日までの間、留守番電話にはたくさんのメッセージが残されていたが、当日は2本だけ長時間の内容が繋がった。ボランティアスタッフは、子どもと真摯に向き合い「安心感と信頼感」のある心の居場所づくりに心がけた。この電話に関わるボランティア養成のための講座を新聞等で募集し開催した。募集定員には満たなかったが意欲的な受講生に恵まれ3名の聴き手が養成できた。しかし、今年度、聴き手・サポートのシフトの都合がつかず、やむなく開設を諦める日があり「毎週開設しています」という子どもたちとの約束が守られない事態になった。来年度さらに実働メンバーが減り、責任をもって子どもたちと向き合える体制が取れない見込みがあり、次年度は休止せざるを得なくなった。

出前講座はほっと・すぺーす 21の目的である「コミュニケーションにおける安心感と信頼感」や「他者への温かなまなざし」などを参加者と共に考える時間を提供できた。

コミュニケーション向上を目的とした小学生とおとなの講座「忍者、参上！」は2年連続国宝松江城周辺と島根県民会館を会場に実施した。子どもとおとな合わせ100人以上が参加し「他者とのかわり」を体感、参加者からの評価も高かった。

コミュニケーションに大切な想像力を養う「ぞんさんのおはなし劇場」は小学生を対象とした講座を4会場実施した。4講座合わせ約400名の小学生とおとなが参加、お話の世界を通し想像力を培った。また、互いに集って楽しいひとときを共有することは、自分がここにいていいと安心し、また他者も温かく受け入れるという気持ちにもつながるという感想も多かった。

やまないいじめや虐待、子どもの貧困、波のように取り巻くネット社会、豊かであろうはずのこの国の子どもを取り巻く様々な問題にひとりひとりが考え、未来につなぐ命を育む行動が必要と思う。

2 事業の実施に関する事項
 特定非営利に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子育て・子育て支援事業	○子どもほっとライン	毎日曜日	松江市	のべ147人	県内の18歳以下の子ども不特定多数	61
	・常設	9月30日	松江市	12人		
	・研修	7月～12月	松江市	のべ25人	県民一般のべ100人 会員 のべ 75人	
	聴き手養成講座 ボランティアスタッフ継続研修	年間	松江市	のべ10人		
	・広報	年間	県内全域	のべ100人	県内の小学生～18歳以下の子ども全員 東部の不特定多数のおとな	
	カード配布	5月6月	県東部	のべ5人		
	聴き手養成講座募集 チラシ・新聞掲載					
○コミュニケーションワーク &人権出前講座	年間	県内各地	のべ20人	幼児～高齢者まで 600人	0	
○コミュニケーションワーク ショップ講座						
「忍者、参上！」	5月 日28日	松江市	のべ15人	小学生81人	42	
・広報 HP・チラシ配布等	5月	松江市他		おとな50人		
「ざんさんのおはなし劇場」	11月27日28日	松江市	のべ12人	小学生・おとな400人	34	
○ネットワーク	年間	松江市他	2人	関係団体・個人一般	3	